

季節のご挨拶 (2016年)

ジリアン・ヨーク 森 下 均

今年も、もう12月となりました。

今年も終わりに近付き、嬉しいことがありました。何と、ツバメの子どもたちが生まれ、育ち、羽ばたきました。2012年の季節のご挨拶に、「ツバメが巣作りを始めたが、子どもは生まれなかった」と報告しましたが、それから4年して、ようやくに巣を使ってくれたこととなります。この4年というもの、ツバメたちに私たち大家が安全な人物であるかどうか監視されていたようです。

11月2日にローンドライで作業服を着替えていて偶然に、親ツバメが子どもに餌を運んでいる姿をガラス戸越しに発見しました。巣のある場所は軒下で雨と風の心配はまずありません。ツバメを襲う蛇はこの国にはいませんし、猫も飛び上がるには高すぎます。ただ台所の外側にあたり、ガラス窓を通して1.5mほどのところに電子レンジがあります。このレンジ、旧式と言うこともあり、扉の開閉や、運転中、終了を告げるときなどかなり音を発します。もう一つの騒音は、ローンモアを使い終わった後、回転刃を洗うのに外の水道の蛇口を使います。この時にもひどい音が出ます。ここから巣までは5mほど。

こうした心配事をよそに4匹の雛たちは育ち、何と発見から2週間後の16日には外を飛び回るようになりました。それまではずっと巣にいた子ツバメたちは、その日を境に夜になって巣に戻ってきたり、戻ってこなかったりするようになりました。最近になり、3つ目の巣を外灯の上に作りました。このツバメ、Welcome Swallow といい、渡りはしません。しかし、11月から2月頃まではわが家の周りにいますが、それ以外のときは姿を消してしまいます。どうやらわが家は、安心して子育て出来る居住環境だとツバメに認定されたようです。年末となり、どうも再び新たな子育てを始めたようです。しかし、まだ雛たちの姿は見られません。



蝉も鳴き始め、朝晩焚いていたストーブも、日によっては焚かなくなってきました。

恒例となりました季節のご挨拶を送ります。文中でHとあるのはヒトシ、Jとあるのはジリアンのことです。

世の中、いろいろなことが起こりますが、来るべき2017年が皆さまにとって、健康で実り多い年となりますよう願っています。

ガーデニング

引き続き、無農薬有機栽培に取り組んでいます。雨が降らなければ、午後には外の仕事をしています。ただ、畑の仕事以外にもたくさんの仕事があります。薪作り、家の修理、敷地内道路の補修、草刈り、芝刈り、嵐の後の倒木処理などに時間を費やさなければなりません。

今年あまり手を広げず、500㎡ほどの土地に集中するようにしています。これまで病気が出ないようにするため、肥料分を抑えコンポストと草木灰だけを使っていましたが、乾燥馬ふんや乾燥コンフリーも使い、肥料分を増やしました。問題点は多々ありますが、主なものは次のあたりにあります。

- ・ 栽培最盛期の1～2月に日本に帰国するため、手入れが中断する
- ・ 栽培技術の未熟さから、主力とする野菜を何

にするか定まっていない。

希望的には保存が出来るタマネギ、ジャガイモ、カボチャ、サツマイモ、ニンジン、ショウガなどを主力としたい。

農産加工

椿油作りは年間作業の中に組み込むまでとなりました。ビワ、カキ、ゲンノショウコ、バラなどの健康茶づくりも軌道に乗っています。ラベンダー、ローズマリーなど大きく育ったものから香料を取りたいのですが、これらはただ絞るだけでは取れないので、蒸留装置が必要となります。その装置作りを考え始めたところです。

お茶

お茶の木も大きくなってきました。ネットで調べて緑茶作りに数回挑戦しましたが、あえなく失敗。作り方が緑茶よりは難しくないとされる紅茶、ウーロン茶も作ってみました。何の特徴もなくただ出来ただけという印象でした。お茶の木は、加工方法が違えば、緑茶にも、紅茶、ウーロン茶、抹茶にもなります。

飲用のお茶作りは諦めて、若葉を食べることにしました。少し苦いですがビタミンCが多いというので、それほど美味しくはありませんが料理に少しづつ混ぜて食べています。

花の名前

毎月末、咲いている花の名前を記録しています。11月末では、園芸植物、雑草といわれる植物、野菜、果樹から数えたもので40種類以上の花が咲いていました。その中には、咲かせてはならない野菜の花で、リーク、パースニップ、ダイコンなどのアブラナ科植物がありました。名前の分からないものは、本で調べて分かるようにしています。オークランドの植物園は強い味方です。園芸店で見かけて覚えたものもあります。

この国独特の植物も数多くあります。世界的にも有名となったものにマヌカ (manuka) があります。これは植物の名前からというよりは、マヌカの花から取れたハチミツに消化器官の胃のピロリ菌、腸の悪玉菌の活動を抑制、殺菌する効果があるとされた

からです。日本でも売っているところがありますし、オークランドの空港では大きなスペースを取って販売されています。人気のほどが窺えます。NZ人なら誰もが知っている木にポフツカワ (pohutukawa) があります。クリスマスの頃に木全体が赤い花で埋まります。NZ版クリスマスツリーとも呼ばれ愛されています。

日本からの植物も、町でよく見かけます。わが家にもサクラ、ツバキ、サザンカ、フジ、シャクナゲ、サツキがあります。

英国人が正式に入ったのが1840年で、まだ170年ほどしか経っていません。そのためか欧米にない植物では、マオリ名があっても学名であるラテン名がそのまま使われているものがあります。代表的なものにピトスポラム (pittosporum) があり、たくさんの種類があり、生垣に使われています。

マオリ名、学名、英語名、それぞれの和名と、覚えるのはなかなか大変です。

芝刈りと雪掻き

町の歩道はコンクリートで固めた歩くところで、その両側は芝生となっています。この芝生は家の前庭に続いています。芝生の手入れは、どうやら家の主人の仕事となっているようです。芝の丈が3cmともなれば気が気でないといった感じで、ローンモアを引っ張り出し、1cmほどに切り詰めます。草がよく伸びる時期ともなれば、毎週でも刈らないと追いつきません。そんな光景は、雪国の家の前に降り積もった雪を、黙々と箒やスコップで道端に積上げていく雪掻きを思い出させます。

わが家の芝地は人の目に触れないこともあり、芝刈りにはずぼらです。他の仕事を優先します。草が相当に伸びても、あまり気になりません。気になるのは、地面にへばりついたように生えるタンポポ類、ヘラオオバコなどで、これは大きくなったものを抜き取っています。

動物

ウサギ

動物たちの動きにも変化が見られます。あれほど傍若無人といった感じで芝地や畑に出没していたウサギの姿が、ぱったりと消えてしまいました。この

理由は考えられます。ウサギの巣のあると思われる辺りに入り込み、バラの実を採ったり、枝を切ったりしたからです。これまでウサギの被害のあったニンジンも、畑で栽培できるようになりました。

ネズミ

小さいネズミ(名前不明)は、もともとガレージに出没しています。ひどい時にはパントリーまで入り込んだことがありました。ガレージの掃除をしていて糞の状態を見ていると、小さいネズミは減って来ているように思えます。食べ物を置かない、食べられそうなものを保管するのなら頑丈な箱に入れる、罠を仕掛けるといったネズミ対策を取ってきました。ところが、過日、車を運転していてエンジンの調子がおかしいことに気づきました。早速、修理工場に持ち込んで調べてもらった結果が、ネズミがエアフィルターを齧っていることがわかりました。取り付けのパイプを食い破ったの仕業です。小さなネズミに出来る仕事なのか。エンジンルームには胡桃の殻が散乱していました。聞けば、田舎ではそれほど特別なことではなく、この工場でも過去に2件の例があったとか。

鳥たち

肉食の動物がないこの国は、鳥たちの天国です。鳥たちの大敵である蛇のいないことは有名ですが、狐もいません。飛べない鳥たちも十分に生育していけます。もっとも有名なキウイは、飛べない鳥の代表です。

砂浴び

この国には、鳥たちの砂浴びに適した土地があまりありません。それは、ほとんどの土地は牧草地であったり、芝地になっています。鳥たちにとって、羽に付いた虫を払いのけるため砂浴びをします。こうした砂や土のむき出しになった場所が少ない中で、わが家の畑は絶好の場所となっているようです。特に春先には、すり鉢状の穴があちこちに見られます。ただ、どの鳥があけたものなのかは、よく分かりません。

カワセミ (Kingfisher)

日本ではあの鮮やかな瑠璃色をしたカワセミは人気のある鳥の一つです。水面に鋭角的に飛び込み魚を捕まえ、銜えて飛び上がる姿は感動的です。ここにも格好はほぼ同じですが、首から腹にかけてが白いカワセミがいます。白いのでどうもユーモラスな感じがして俊敏なカワセミとは思えません。いつも単独行動です。時々、家のそばにある柵(せんだん)の枝に止まっているのも目にします。芝地には魚はいませんから、虫を狙っているようです。水辺にだけいる日本のカワセミと比べると、割合にどこでも見かける鳥の一つです。

鶉 (Quail)

鶉(うずら)と聞くと、瞬間的に鶉の卵と口をついて出てきます。ここにいるのは、日本にいる卵を取る鶉とは違い、野生で狩猟対象にカリフォルニアから導入されたものです。朝早く、台所の窓から見ると、親子で群れを成して歩き回っています。オスには立派な冠があります。歩くのは得意ですが、飛ぶのは苦手です。

マイナ (Myna)

まいなと音だけを聞けば、最近の女の子の名前にも聞こえてしまいます。漢字で書けば舞奈か舞菜といったあたりで、やさしい響きがあります。ところが、ここに住み着いているマイナは、インドからやってきた鳥で、よく言えば生活力旺盛、悪く言えば意地悪で意地汚い。目の周りが黄色く縁取りされ、歌舞伎の悪役のような顔をしています。他の鳥の巣に入り込んで雛を殺し、自分のねぐらにしてしまったりします。朝夕の高速道路に出没し、高速で走る車にぶつかって死んだりする昆虫を餌にするのも、このマイナです。そのため、危険と隣り合わせのこの行為で、自分の命を落としたマイナの死骸をよく見かけます。好奇心の旺盛で、ストーブの煙突に入り込んで出られなくなり、ストーブの焚き口まで落ちてくることもよくあります。

ファンテイル (Fantail)

その名の通り、fan=扇、tail=尻尾であり、体の半分以上が尻尾で、この尻尾を広げると扇の格好にな

ります。小さい鳥で、蝶々のようにふわふわ飛びます。人なつっこく畑仕事をしていると、すぐそばまで来て、飛び回ります。何と目の上に眉毛のような線が入っています。姿が特徴的なところから、絵やスタンドグラスに描かれることがよくあります。

昆虫

ショウジョウバエ

パントリーに置いていた醤油差しに、ショウジョウバエの死骸が何匹も浮かんでいたことがあります。どうしてこんなことになったのかを、よくよく考えてみると、醤油の出る穴から入り込んだものと推測できました。このことがあってから、醤油差しは冷蔵庫に入れるようにしました。冷蔵庫といえば、わが家には冷蔵庫は2台あり、1台は普通に電気を通して冷蔵していますが、もう1台は電気を入れず、ネズミなどが侵入できない保管庫として利用しています。

ミツバチ

わが家の一郭に養蜂業者が置いた巣箱があります。置き始めてから3年ほどになりますから、周りに花がたくさんあって、蜜が取れる成績が悪くはないようです。もともと自前のハチミツを採りたいという希望があります。豪州にいる友人の養蜂家に尋ねてみると、大変なことだから買って食べた方がいいといいます。しかし出来るだけ早く、ミツバチを飼ってみようと思っています。マヌカの花のハチミツの効果が素晴らしいというので、空港などでは高価で販売されています。マヌカの木も風除けに意識的に植えていくつもりでいます。

エネルギー事情

電力

一番の特徴は、原子力発電がないことです。人口が少ないのと、人口に対して一人当りの面積が広く河川が多いので、水力発電が中心です。火山国のため、地熱発電も実用化しています。

木材・薪

暖房用にストーブがよく使われています。わが家の近くにある家々にも煙突があり、朝夕ともなれば

煙が立ち昇っています。わが家にもストーブは2つあります。一つは暖房用で、もう一つは料理用です。料理用のストーブは、今ほど料理器具の発達していなかった頃には先進的なものだったと推測できます。薪ストーブにも拘らず、温度設定できるようになっていて、煮物、焼物に使われていました。しかし、私たちには残念ながら、使いこなせていません。これらのストーブは、もともとこの家の付属としてあったものを、家と一緒に買いました。

薪は完全に自給自足しています。焚付けにする小枝は、風が吹くたびに落ちてくるユーカリ。今年になって薪割り斧を購入しました。割とスパッと割れるので、楽しんで作業しています。薪にするのは、ユーカリ、ポプラなどが主です。一年中、時間があればチェーンソーで木を切り倒し、薪にして大木の周りやガレージの外に作った薪置き場に積上げて乾燥させています。焚火の火を眺めているのは心落ち着くものがあります。昔々の人たちが、火のまわりはもっとも安全で快適な空間としていた頃の記憶が蘇ってくるからなのでしょう。

風力

少なくとも今住んでいる町では、風力を活用しているところは見かけません。風が強すぎることもあるためと思われます。ここ以外でも巨大な風車も見たことがありません。かつてモデルの風車をフェンスの杭の上に取り付けていたことがありますが、あまりの強風にプロペラが壊れてしまいました。

ガス

プロパンガスを使っています。今月になり、意外に早くガスがなくなりました。2月ちょっとでなくなってしまったことになります。8月に日本に帰国して9月にこちらに戻ったときにもすぐなくなり、充填してもらったばかりだからです。これまでは普通、半年くらいは持ちました。ガスがなくなると、ボンベを車に積んで、ガスステーションに行きます。電話一本で交換に来てくれる日本とは、大いに違うところです。都市ガスならガスがなくなるといってもないのでしょう。このボンベの高さは95cm、直径は30cmで、一人で車に積むのは難しいです。ガスを充填してもらい、家に帰って下ろすと

きも一仕事です。2人でようやくできる仕事です。このポンベを2人で持てなくなれば、小さいポンベにするか、町へ引っ越さざるを得なくなります。

太陽 (光、熱)

洗濯物は、天気さえよければ屋外の物干しで干しています。外で干すのは当たり前と思われるでしょうが、4年前にアメリカ・アリゾナに行ったときには驚きました。洗濯物は屋外で干されず、乾燥機で乾燥するのだと聞いたからです。アリゾナの夏の太陽は強烈で、外に干せば、ぱりんぱりに数時間で気持ちよく乾くことでしょう。どうして外で干さないのか大いに疑問に思いましたし、世界的な環境保護にも積極的でないことがよく分かりました。

太陽光パネルを屋根に置き、温水を得たり、発電をすることは日本ではポピュラーなものです。しかし、ここではこうした光景は見たことがありません。

道路事情

68年ぶりというスーパームーンの夜、11月14日午前零時過ぎ、南島ハンマースプリングスの南東20kmを震源とするマグニチュード7.8の地震が発生しました。人の少ない地域だったため、死者は2人に留まりましたが、道路は壊滅的に寸断されました。

この国を北から南に縦断するのが国道1号線で、主要都市であるオークランド、ウエリントン、クライストチャーチを結び、輸送路の動脈の役割を果たしています。地震の直撃を受け、南島のピクトン〜ワイラパ間、288kmに亘り交通止めとなり、今でも部分的に未開通となっています。迂回路となったのが6及び7号線を使ったコースで462kmとなり、1号線利用と比べると、距離にして6割も長くなりました。全面開通には、まだまだ時間が掛かりそうです。

この国の道路は、国の大きさ（日本の70%）に比べ人口が少なく、費用負担も大変なところからトンネルがほとんどなく、地形的に厳しい山岳地帯は、山と海との狭いところを道が縫うように走っていません。新設道路はほとんどありません。わが家で今使っている道路地図はAA（日本のJRAに相当）の1988年の改訂版で、約30年前のものです。それでも

道路新設はほとんどありませんから、今でも十分に使えます。この夏、京都・兵庫の日本海側を車で旅しました。所要時間を計算するため2000~2001年版、道路時刻表を使い事前に計画してみました。ところがたった15年ほど前の地図では計画区間であった舞鶴自動車道が全面開通しており、計画もなかった宮津道路も完成していました。人口の多いこと、公共事業のお蔭といったところでしょうか。

ところで、NZでの高速道路は無料で、どこにも料金所はありません。ただ高速道路といっても町と町を走る間だけのことです。そうした所には人家もまばらで、時速100kmの高速道路となります。しかし町に近付くと70kmとなり、町中では50kmと速度を落として走ることとなります。大きな町には町中を避けるバイパスがありますが、住んでいる町パエロアを含め、小さな町では町の中心部を大型トラックなどが通り抜けて行きます。

田舎の道では、それまでの片側1車線の道が、川に架かる橋では1車線となるところがあります。交通量が少ないので、橋の建設費を節約したものと思われれます。ガードレールが少ないのも同じ理由のようです。道路に動物の死骸が多いのも特徴の一つといえます。ウサギ、ポッサム（有袋類）、マイナ（鳥）が主な被害者で死骸は回収されず、何回も車に轢きつぶされ、そのうち見えなくなってしまいます。

特別な道を除いて、路面舗装は簡易でコールトールを撒いた上に、砂利を撒き、表面を鎮圧しますが、完全に平にまではしません。時速100kmで走る車は、時として浮いている砂利を跳ね上げ、自分の車や他の車のフロントガラスを傷つけます。これも道路関連費用の節約のためと思われれます。

リサイクル

2010年頃の流行語に断捨離というのがありました。

断 これから入ってくる不要なものを断つ

(買わない)

捨 今持っている必要のないものを捨てる

離 物への執着することから離れる

(物欲をなくす)

この断捨離のうち、「捨てる」に注目してみました。捨てるとは、ごみとして再利用されないということなのでしょう。もちろん、本当に不要なごみ

というものもあります。しかし、この国で行なわれている物の再利用には感心させられます。それは何とかお金にしようという意欲の表れなのかもしれません。服、焼物、CD、本などは一般的ですが、古くなった靴、釘、電気コード、ガラス瓶、箱、使いかけのペンキなどなどが、次のような店で売られます。お金になるという喜びもありますが、更なる喜びは、捨てるのに忍びがたい物が他の人の手に渡り、再び使われるのが嬉しいです。究極の物の処分方法として、値段の付けられないものは、Free と表示してあり、マーケットに来た人に自由に持って行ってもらうことも出来ます。

何はともあれ、物を捨てるには相当の覚悟が要ります。しかし、このようにマーケットで何とか処分できると気分的には嬉しくなります。



ガレージセール (Garage sale)

毎週末、ガレージセールが行われます。ガレージのイメージがぴんと来ないかもしれません。独立した家屋と考えてもらったほうが理解しやすいと思います。車1台のみならず、2台入るところもあり、それにワークショップや物置の機能も持たせた、大きなところもあります。不用となったものを、自分のガレージや庭に並べて売ることが多いです。引越しの時には規模が大きくなります。行ってみると売れそうもないものが多いですが、そこでの会話を楽しみに訪れる人たちも多くいます。土曜日には日曜日よりも多く開かれ、開催日時、住所、主に扱うも

のが地元新聞のお知らせ欄に掲載されます。

OP ショップ (opportunity shop)

opportunity shopの略で、意味は消費者側から見たら、いいものや掘り出し物のある店となります。キリスト教会が資金作りのために運営しています。住んでいる3千人ほどの小さな町ですが、2つの店があります。不用となったものを、この店に持って行けば基本的には何でも受け取ってくれます。提供者に金銭は与えられません。最近、ごみやごみに近いものが持ち込まれ問題となっていると聞きました。

マーケット (market)

毎週末、街のアーケードの下や特別の建物で開かれます。マーケットの性格によってプロの人の多いものと、アマチュアの人がほとんどのものがあります。Jも時々、参加しています。Hの底の抜けた登山靴も売れていきました。カメラのペンタックスは捨てるに捨てられないでいたのですが、マーケットのオークションで45ドルの値で売れました。

マーケット (car boot sale)

car bootとは、車のトランクのこと。本来、車の後部のドアを開いて、持ってきた商品を見せて売るというスタイルだったことから、このように言われるようになりました。

リサイクルショップ (recycle shop)(second hand shop)

アンティーク (基本的に100年以上の古いもの)よりも時代が経っていないが、まだまだ使えるものを扱っています。店を構えていますから、ドア、カーペット、ガラス窓、トイレ、カーテンなど大物も揃っています。自分で家を建てたり、修理したりする人が多いお国柄が反映しています。

アンティークショップ (antique shop)

捨てるという範疇ではないかもしれません。しかし日本での現状を見ると、まだ十分に使える家具が捨てられたりしています。ここでの特徴は、中古家具が立派な商品として幅を利かせていることにあります。中古家具だけの店がたくさんあります。

国旗変更の国民投票

3月に現在の国旗のデザインを変更するかどうかの第2回目の国民投票が行われました。これは昨年、5案の中から第1回国民投票で絞り込まれた左側にシダ、右側にこれまでと同じ南十字星を配したものと、現在の左上隅にユニオンジャック、右側にシダというものとの一騎打ちとなり、現在のものが57%の支持を受けて、現状維持となりました。投票率は67%。この国民投票を主導したのは現政権党の国民党で、変更を強く訴えて投票に臨みました。

敗北が決まった際のキー首相のコメントは「結果はどうあれ、議論が深まったことが大事だ」という、第三者のようなコメントを残し、辞任はしないままでした。いみじくも今年は英国でEU存続か離脱、イタリアで憲法改正を掲げて国民投票が行われ、英国ではEU残留、イタリアでは憲法改正を求めて国民投票に臨んだ両国の首相の意向とは反対の結果となり、責任を取り即時辞任しました。

どうしたことか、キー首相は12月になり突然、家族との時間をもっと持ちたいとして辞任し、代わって首相となったのは、現国旗に相応しい名前のイングリッシュ氏となりました。

統一地方選挙

3年に一度の統一地方選挙が10月8日に行なわれました。投票できるのは選挙管理委員会に登録を申し出た人だけで、登録手続きをしなければ投票しなくてもいいですし、投票率の算出の分母となる数にも含められません。私たちは過去に、郵便で登録を済ませていますから、投票用紙が送られてきました。選挙戦といっても静かなもので、道路沿いに候補者の写真と名前の看板が立てられています。公設の看板はなく、立てられる人が立てているといった感じです。郵便箱に候補者のパンフレットが入れてありましたが、町会議員候補9人のうち3人だけでした。今回の選挙は、町長、町会議員、健康委員会議員を選ぶものでした。投票用紙に続いて、選挙公報に準ずる選挙のパンフレットが、送られてきました。この地域では、町長(定員1人、立候補者2人、以下同じ)、町会議員(4人、9人)、健康委員会議員(7人、20人)を選ぶもの。パンフレットを読んでも、今ひとつよく分かりません。ある晩、ロータリークラブ

が主催する立候補者の声を聞く会のような催しが開かれましたので、出席しました。会は盛況でした。人柄のようなものは掴むことが出来ました。投票の基準にしたのは、わが家の近くで開発が進められようとしている鉾山に反対するかどうかでした。

投票は郵便投票で行われました。鉾山反対を明確に主張した候補は落選しました。選挙結果は、すぐに新聞には出なかったようです。ネットで調べて結果を知りました。国民投票もそうでしたが、投票用紙の不正取得や開票が公開では行われぬなど、不正の可能性は非常に大きいものがあります。全国の投票率は40%。その気になって投票用紙を集めたら、結果を変えることも十分に可能となります。

政策金利、為替

今年のNZの政策金利は、小刻みに3回の利下げが実施されました。1月には2.50%だったものが、5月には2.25%となり、8月には2.00%、そして11月には1.75%と、1年に0.75%下がりました。これに連動して預金金利も下がるかを見ていましたが、意外にもあまり下がっていません。預金額1万ドル(約80万円相当)で2016年12月の定期預金金利は、120日3.30%、180日3.35%、1年3.20%、2年3.70%。

為替(NZ\$円)は年初こそ円安でしたが、年央には英国のEU離脱が国民投票で決まり円高となりました。年末には米国の政策金利の利上げがあり、再び円安となりました。生活防衛のため、円安の時には銀行預金口座から引き落としとなるEFTPOSカードを使い、円高の時にはクレジットカードを使って買物をしています。

料金表示のない切手

日銀にあたるNZRB(ニュージーランド準備銀行)の金融政策は、インフレーターゲットを導入しており、物価上昇1~3%の幅で調整されおり、物価の値上がり前提となっています。そのため公共料金もよく上がり、今年7月1日から切手代が値上がりしました。この7月1日というのは、お役所などの新年度の最初の日です。

NZには切手料金が表示されていない奇妙な切手があり、前々から不思議に思っていました。それはKiwiStampというもので、国内郵便に使われます。郵

便局で買うと、これまでは1枚80セントだったのが、値上げとなり、1ドルとなりました。これまでの手持ちのある人は、1ドルとなったのだからKiwiStamp 1枚に20セント切手を貼ればいいのかと思いきや、何とKiwiStamp 1枚でいいというのです。

これで料金表示のない切手KiwiStampの意味がよく分かりました。切手料金が値上げとなっても新しい切手を発行しなくてもいいシステムです。これからは値上げ前に駆け込みでKiwiStampを買わなければなりません。

永住権と市民権

日本では今年9月の民進党代表選挙で新たに選ばれた蓮舫氏の国籍問題が話題となりました。日本では国籍や永住権、市民権という概念は希薄な分野のもので、ほとんどの日本人の国籍は日本で、他国の永住権や市民権を持つ人はほとんどありません。

私たちはJが英国籍で、Hは日本国籍です。Jは日本とNZの永住権を持ち、HはNZの永住権を持っています。永住権を持っていても国籍への障りはありませんが、市民権を持つと国籍に影響を及ぼします。二重国籍を認めない日本では、HがNZの市民権を取得すると、日本の国籍を失うこととなります。Jは二重国籍を認める英国籍ですから、NZの市民権を取得しても、英国とNZの両方の国籍を有することが出来ます。

市民権を取ると選挙に立候補できるなど、政治に参加する権利を得ます。この市民権を取得するのは難しいことではなく、書類手続きだけで済みます。永住権を持っていれば選挙への立候補は出来ませんが、投票は出来ますし、仕事、滞在も自由にできます。JもHも今さら政治への関与には関心がありませんので、このまま永住権だけでNZで住むことにしています。

植物のように動かない日本人

外務省が発表する「海外在留邦人数調査統計（平成28年要約版）」というものがあります。この統計によれば、Hは永住者の扱いとなっていることが分かります。永住者の定義は、「当該在留国等より永住権を認められており、生活の根拠をわが国から海外へ移した邦人を指す」とされています。Hとして

は、毎年2回帰国し、主な買物も帰国時に行い、確定申告も日本でしていますから、大いに違和感があります。

統計の内容を見てみましょう。NZに住む総数は17,991人で、永住者が9,652人、長期滞在者が8,339人で、その数はほぼ拮抗しています。男女別では男性6,364人、女性11,627人となっていて、女性の人数が多いが目立ちます。永住者の男女別（同居家族数を除く）では、男性1,256人、女性3,439人と明らかにバランスが取れません。この差は、女性がNZ人男性と結婚しているものと考えられます。植物のように動かない日本人と言われることもありますが、女性はじわりと海外に移動し、根を張りつつあるように思われます。

長期滞在者で多いのは、ビジネス関係者1,127人、留学生・研究者3,925人、その他2,492人です。留学生・研究者の男女別（同居家族数を除く）では、男性1,269人、女性2,401人、その他（これは主にワーキングホリデーの人と思われ）では、それぞれ442人、1,334人となっていて、NZの女性人気が窺われます。

更に詳細については、2月帰国の際に調べてみたいと思っています。

日本の存在感

オークランド空港へ到着する友人を迎えに行く前にチェックするサイトがあります。それはFlight Status というもので、時刻表の到着時刻に対して、どれだけ早くなるか遅くなるかを示しています。これをみて飛行機の到着予定を確認して、家を出て空港に向います。

このサイトを見て、この国最大の都市オークランドへの到着便を調べてみました。日本からのフライトは一日2便で、東京からのものです。いずれもニュージーランド航空が運航し、日本の飛行機ではありません。過去には日本航空が飛んでいましたが、倒産に伴い姿を消しました。

一方、存在感があるのが中国からのフライトです。北京、上海、広州からの5便に加えて、香港からの3便もあり、圧倒的な存在感があります。この8便のうち、1便はニュージーランド航空の運航ですが、7便は中国の会社のマークの飛行機が飛んで

います。空港での看板表示は英語と中国語(北京語)でされています。観光地に中国からの団体客が溢れているのは、このフライトの多さからうなずけるものがあります。

アジアからのフライトは韓国、タイ、シンガポール、マレーシア、台湾からもあり、それぞれ自前の飛行機を飛ばしています。日本はアジアの中では、ニュージーランドが一番近い国です。そこからの飛行機がないというのは、近年の日本の停滞を意味しているのでしょうか。

姉妹都市関係でいうと、1990年代までは日本とニュージーランドの市区町村と提携は急激に増えましたが、2000年代に入るとその伸びはぱたっと止まり、代わって中国との友好都市(中国では姉妹都市といわず、友好都市という)が急増しています。住んでいる町パエロアは、上海の郊外の地域と提携を結んでいます。100%中国資本の会社がパエロアにある工場を買収し、アイスクリーム会社にして、この12月に稼働を開始しました。生産する製品はこの国では売らず(NZのマーケットを荒らさない)、全量を中国本国に輸出し、最大で地元の50人を雇用しようというのが売りです。パエロアの町には、日本のトヨタ、ホンダ、ニッサン、ヤマハの看板が目立ちます。まだ中国の看板は見当たりませんが、スーパーなどの商店には中国製品が氾濫しています。

日本語の料理の名前

寿司が、ポピュラーとなってきました。Sushiというのぼりや看板をよく目にします。寿司以外にも、テリヤキ、テンプラ、ラーメン、うどん、○○ドン(丼)、スキヤキ、カツ、サシミなどが、日本語のまま英字で表記されています。

ただ、表記は同じでも中身を見ると「あれっ」と思うものもあります。寿司はワサビ抜きです。小さなプラスチック容器にワサビは入っていて、ワサビ好きの人はこれをつけて食べるようになっています。寿司の種類も、海苔巻きが多く、アボカドロールが主流です。握りの魚は、ほとんどがサーモンです。丼物では、日本で定番のカツ丼、親子丼、うな丼、玉子丼などは見当たらずテリヤキ丼など一風、変わったものとなります。ラーメンは、大体同じです。

マイナンバー

昨年ちょうど今頃のニュースでは、マイナンバーの通知カードが届かない、配達されないと大きな話題となっていました。例年のように、私たちは2月に帰国しました。郵便物は東京の友人宅に転送扱いしています。ここに届いた郵便物の中には、マイナンバー関連のものはありませんでした。高山に帰り、転入届のこともあり市役所に行きました。ここにも通知カードはありませんでした。しかし住民票を取れば、それにマイナンバーは記載されており、問題ないとのことだったので、住民票を取得しました。

8月に再び帰国し、2月と同じように転入届を出しました。その時、何と通知カードがもらえました。その時、このマイナンバーの仕組みの一部が分かりました。2月に日本に住所があるようになり、そこで市役所から総務省にその旨の連絡が行き、通知カードが発行されました。そして発送されたのですが、転送届けを出しているので転送不可となり、市役所で保管されていたことが分かりました。8月末にいつものように、転出届で行くと、今度は通知カードの返納を求められました。日本に住所がない場合は、マイナンバーのうち通知カードは渡せないとのこと。そうすると年に2回、2月と8月に帰国し、転入と転出を繰り返している私たちは、通知カードをそれぞれの月に数週間保管するということが繰り返されることになるのでしょうか。

マイナンバー法の施行に伴い関係団体は、税務署に提出する支払調書にマイナンバーの記載が義務付けられました。そのためこれら団体は、マイナンバーの収集という仕事が必要となりました。これら団体へ通知カードがないことを説明するのは、なかなか難しいものがあります。それは日本に住所のあるマイナンバーの収集の担当者が、自分の例を基に考え、当然、通知カードが私たちにもあると思ってしまうからです。

マイナンバーのことで言えば、個人番号カードを取得する方法もありますが、郵便物の転送手続きをかけているので、果たして取得できるのかどうか不明です。

年金

Jも今年60歳となり、日本の年金が貰えるようになりました。Jは年金については、10年ほどしか掛金を払っていなかったのに、貰えるのをほぼ諦めていました。年金を貰うには、25年間払い続けなければならないという条件には、到底達しそうにもなかったからです。年金国会といわれた2000年代、それに続く政権交代があり、このハードルがぐっと下がってきました。年金事務所の相談も、とても丁寧に親切にしてくれるようになりました。この頃の相談で、外国人には特例があることが分かりました。持っているパスポートを全部持って年金事務所へ行き、2日間で延5時間かけて調べてもらったこともありました。その結果、受給できることが分かったのです。60～65歳までは、少ないとはいえ日本で年金が貰えます。

これで一息ついたとはいえ、次の課題が浮上してきました。NZの年金は65歳から貰えます。年金は税方式が採用されているため、受給者は掛け金を払わなくても年金が貰えます。法律でいろいろと変わりますが、条件としてはNZに10年以上住み、うち50歳代でその半分以上、NZに住んでいるというものです。これにはJは合致するものと思います。しかし大きな問題が控えています。JはNZの税居住者ではなく、日本の税居住者です。このことはNZの税当局との長い長い交渉の末、決定されたものです。決定的だったのは、Jの収入がNZでのものがなく、すべて日本からのものというところにありました。Jにとってこのことは朗報でした。NZでは基本的に控除の考えがなく、また必要経費はほとんど認められませんし、税率が高いです。一方、日本の税金は、ずっとJの収入程度では有利です。

さてそこで、今後5年の間にNZで貰うようにするか、日本で貰うようにするかを決めなければなりません。両方からもらうということは出来ません。多分、NZで貰った方が多いでしょう。JはNZで年金の原資となる所得税を払っていません。所得税を払っていなくても年金が貰えるのか、年金事務所に打診したことがあります。

窓口対応は酷いものでした。事前にアポイントメントを取っていないと相談にも乗ってくれません。ようやく相談できて人によっては貰えるといい、

また他の人は貰えないといっています。この人たちにとって、所得税を払わずに、この国に住んでいること自体が考えられないのです。しかし、そのようなこともあるとして相談に乗ってくれる人には、悲しいながら出会えそうにもないのではないのでしょうか。少し複雑なことがある時は、お役所に相談するより、自分でそのことをインターネットで調べるようにしています。しかし、Jのことは特別すぎて、出てきません。日本での年金事務所の扱いは、今になってみると夢のようです。このようなお役人を育てたのは、気のいい納税者のNZ人たちだと思うと、悲しくなってきました。Hはかねがね、現実的な対応として無難な方法として、日本で貰うことを主張しています。NZで年金は貰えるようになった、しかし税金の扱いはNZの税居住者となったのでは悲惨なことになります。

入籍

2007年から私たちは事実婚を続けてきましたが、今年の2月の帰国の際に入籍しました。これまで入籍しなかったのは、個人的や家族の理由ではなく、戸籍制度の違いにありました。Hは日本国籍、Jは英国籍です。日本には戸籍制度があり、個人情報網羅されています。一方、英国には戸籍制度はないので、在日英国大使館ですでに結婚をしていないという証明をしてもらう必要がありました。

そのためには本人が大使館に出向き、担当大使館員と面接し、婚姻要件具備証明書を作成してもらわなければなりません。面接の後、大使館ではJの結婚する旨の公示を3週間行い、意義がなければ書類を作成するようになっていました。いつもJの日本滞在は1ヶ月以内で、この手続きをする時間的な余裕がないまま過ぎてきました。ところが最近になり、公示の手続きが不要となり、即日、交付を受けられるようになりました。昨年8月の帰国の際、手続きに必要なHの戸籍謄本を取得し、婚姻要件具備証明書を発行してもらいました。8月には再び高山へ帰って、入籍手続きするだけの時間がないため、今年の2月帰国の時に、婚姻届を出すことにしました。

次の問題は、この8月に発行された書類が半年後の2月にも有効かということでしたが、これは問題なく受理され、手続きは終了しました。

ネットで見てもよく分からなかったことに、名前(姓)のことがありました。しかし国籍の違う者同士の結婚については、夫婦別姓でもいいことが分かり、今までどおりの名前を使っています。

還 曆

Jは今年、還曆を迎えました。オークランドでの高校時代の仲よし3人組で、還曆のお祝いしようとして昨年からの相談を重ねてきました。3人のうち2人はNZに住み、もう一人は豪州に住んでいます。昨年からのどうするか相談が続いていました。一つの案として出たのは、南太平洋のどこかの島で開こうというものがありました。いつの間にか、没となりました。ノルウェーの画家ムンクの絵に「橋の上の少女たち」というのがあります。夕暮れに満月が昇ってくるのを3人の少女が、橋の上の欄干に凭れて眺めているという構図です。この3人組の出会ったのも、「橋の上の少女たち」の年恰好によく似ています。お祝いのイメージは、この絵にありました。

そして今年になり3人のうちの一人で、オークランドに住むカースティの家に集まることになりました。セティングから料理まで、すべて彼女が引き受けてくれました。4月2日(土)に、3人とそれぞれの配偶者にカースティのお母さんも当日は同席しました。フランス料理、ギリシャ料理、イタリア料理に混じって、Jに関係ある日本料理の鮭とアボカドのロール巻きも供されました。

還曆といえば、日本では特別なお祝いとなりますが、ここNZでは60歳だけでなく、区切りのいい歳なら65歳でも、50歳でも自分で納得できる年齢でお祝いをします。しかし大きな違いがあります。これはその歳となった本人が、会場を決め、食べ物や飲



み物を準備し、参加者の費用負担は一切なしというスタイルで行われます。

今回、3人は健康で出会えたことに気をよくし、今回は70歳に再会することで話が纏まりました。

年2回の帰国

今年も2月と8月の2回、帰国しました。2月には確定申告と築120年に近づいた高山の家の雪下ろし、8月はお盆が主な目的です。しかし、この帰国を利用して健康管理のため、気になるところをチェックしてもらいに、それぞれ病院通いをします。幸いにして、どちらも健康面では大きな問題はありません。帰国中にはJはクライアントとせっせと会いに出掛けます。もちろん古くからの友人たちとは旧交を温めています。

忙しいのですが、この日本への帰国に合わせて、国内外へも旅しました。1月中旬に出発して、Jの兄さんの奥さんの60歳のお祝いにスペインへ行き、マドリッド、パルマ、バルセロナに行きました。その後、ポルトガルに足を延ばし、ポルト、マドリッド、リスボンにも行きました。フリーマイレージで2月末には、韓国・プサンにも行きました。国内では京都、信楽、奈良の古い伝統的な姿を楽しみました。8月の帰国の際には、外国ではフランス・パリへ行きました。前年のテロの影響か、観光施設はそれほど混んでいませんでした。国内では、稲沢、多治見、天橋立(宮津)、城崎温泉、伝統的建造物群保存地区の舟屋、浦嶋神社(伊根町)へと行きました。日本海の青さは印象的でした。

国内外と旅していますが、まだ体力的には大丈夫です。NZと日本の飛行時間は約11時間です。NZの家では映像が見られないので、機内では久しぶりの映画が見られ、飲み物も食べ物も出してもらえるので、退屈しません。ヨーロッパへの飛行時間は、これとほぼ同じ時間ですから特に辛いとは思いません。来年の1月には再びフランス・パリに行きます。こここのところヨーロッパによく出掛けるのは、古いもののないNZへの反動でもあります。

スリに遭う

パリ滞在もあと一日となった日、昼前のモンパルナス駅の人ごみでJはスリの被害に遭いました。8

月末から9月初めにかけてフランスのパリを旅しました。もとよりパリの治安がよくないことは聞いていました。地下鉄の駅構内では、日本語でスリに気をつけるようにアナウンスされている駅もあります。Jは被害に遭ったその朝、美容院で髪を切り、ホテルのフロントで新しい髪形を褒められたりして、気分もルンルンの日でした。滞在も10日目となり、何事も起こらず気が緩んでいた時の災難です。Jの人間にそんな悪い人はいないという思い込みもこの日は悪い方に転びました。

西部と南西方面への国鉄の始発駅のモンパルナスは、スリの多いことでも有名です。宿を出て地下鉄でこの駅まで行き、エッフェル塔への地下鉄の乗り換えに長い通路があります。どうもここでバックパックの外ポケットに入れてあった財布を盗られたようです。乗り換えした地下鉄の一駅目を過ぎたところで気づきました。かなりの金額のユーロが入っていました。

この日は警察への被害届、クレジットカードや日本の在留カードの紛失手続きで終わってしまいました。フランス在住のJの友人にことを告げると、「日本人、特に女性はよくスリの被害に遭うのよ。Jは本当に日本人みたいね」と変な褒められ方をしてしまいました。来年の1月には再びフランスへ行きます。今度は冷静にスリの行動を観察してみたいと思っています。

これは奇跡か？

今年の1月、ポルトガルのリスボンにいました。国立古美術館の室内の展示もほとんど見終えたあと、テラスがあり、ひと休みをしようとした時のことです。ほとんど海といってもいいような広い川幅の向こうに小さく立像が見えます。目を凝らして見ると、リオデジャネイロにあるキリストの像に似ています。持ってきた望遠鏡で確かめてみることにしました。ところがバックパックの中をどれだけ探しても見つかりません。館内のベンチに座ったときに置き忘れたのかとも思い、引き返してみましたが見当たりません。入館受付で尋ねてみると、何とそこに届いていました。

望遠鏡で見ると、やはりキリストの立像でした。もしテラスに出ず、この像にも気づかなかつた

ら、望遠鏡はリスボンに置いたまま、無くなってしまったかもしれません。これはキリストの奇跡なのか、と考えてもみました。

旨いもの

この夏、日本で生まれて初めて口にしたのがあります。それは京名物の鱧（はも）。滞在中に偶然にも2回も食べられました。味を旨く表現できませんが、美味。私たちはグルメというほど食べ物にお金をかけたことはありません。シンプルで、それほど値の張らないのを楽しんでいます。日本から持ってきてもらった高級のり、これはぱりぱりして本当に旨かった。冬に行ったポルトガルのファドを聴きながら呑んだポルト、フランスのオムレツとエスカルゴ、そして毎朝、焼きたてのバゲット（フランスパン）。6時頃から店を開くパン屋で求めて、毎日のように食べました。

これまでは、一年中ビールを呑んでいましたが、冬になると流石にビールは体が冷えることから、ワインを呑み始めました。適当に選んで呑んでいます。旨いものに、これからもいろいろと出会いたいものです。

空港での出来事

2月の日本への帰国からNZへ戻ったのが3月4日の早朝です。NZの動植物検疫は厳しいことで有名ですが、ここで事件が起きました。今回のフライトは成田からオークランドまでの直行便だったため、成田で免税品の日本酒を2本買いました。直行便でないとアルコールを含む液体物の機内への持ち込みは出来なくなりました。赤いデザインの紙袋に入れてもらいました。

NZに着き、動植物検疫の口頭でのチェックも無事に終わり、最後に荷物のレントゲン検査があります。私たちの荷物は多く、8個ほどがありました。Hがベルトコンベヤーに、免税品の赤い紙袋を最初に乗せました。その後、バックパック、デイパックを乗せ、レントゲン装置の先にある受取りに向いました。ところがおかしなことに最初に乗せた赤い紙袋がないのです。夜を越えたフライトただだけに、頭も少し混乱しています。どうしたのか考えて

みると、ベルトコンベヤーのHの前の日本人と思われる年配の男性が、本人の分と一緒にHの紙袋も持っていったと考えるしかありません。ベルトコンベヤーの先は、ロビーへの出口で、一旦ロビーに出てしまうと逆方向に戻ることは禁止されています。

自分の荷物が持ち去られたと、レントゲン検査をしている係員に言いましたが、肩をすくめるだけ。Jによれば笑っている係員もいたとか。すべての荷物をまとめ、上役と思しき男性職員に事情を話すと、まずロビーに出て待っているように言われ、従いました。

しかし、どれだけ待っても動植物検疫所のドアは開きません。待つ間に空港のヘルプデスクで警察へ連絡してもらいました。私たちにとっては、今回のことは間違いなく盗難と考えました。すぐには行けないので、空港で待てというのが警察からの指示でした。30分近くしても何もないので、動植物検疫所のドアのバルを押しました。そして得られた結果は、「Hの前の男が持っていくのをビデオカメラで確認した、検疫所には責任はない、警察に連絡してくれ」と話すとい方的にドアを閉めてしまいました。いつものこの国の典型的な自己保身に徹するお役人の態度です。

警察へは、こちらから行きました。国際線と国内線のちょうど中間のところにあり、歩いて5分ほどのところにあります。ここでの対応は、荷物を持ち去った人物を探すというよりは、紛失物品が保険でカバーされるときに証明書づくりのようなものでしたが、動植物検疫所のお役人と比べたら、ずっとましなものでした。

空港には到着いたというのに、家に着いたのは夕方になっていました。メールを確認すると旅行代理店からメールが入っていました。荷物はロトルアの空港にあるというもの。同時に警察からの電話もありました。翌々日に2時間先にあるロトルアの空港に行き、無事、荷物を取り戻しました。開けてみると日本酒2本、コート、マフラー、それに搭乗券が入っていました。この搭乗券が決め手となり旅行代理店からメールがあったものと思われま。残念ながら持ち去ったと思われる日本人の男性からのお詫びのメッセージは残っていませんでした。何とも基本的なマナーが劣化したものです。

空港の警察で事情聴取の始まる前に「ニュージーランドを安全に旅行するための注意事項」という冊子を手に入れました。これを読んでも動植物検疫所は無法地帯とは書いてありません。NZに来られることがあれば、自分の荷物は自分で守るようにしてください。

8月の帰国の際には、同じように免税品を買いましたが、紙袋を裏返しにして他の免税品のものとは違うようにしましたし、レントゲン検査には前に人との間を空け、紙袋もいちばん最後に乗せました。

海外からのお客さま

今年はいくさんの人たちに、わが家に泊りがけで来ていただきました。日本から2組2人、豪州から1組2人、台湾から1組3人となり、滞在延日数では80日を越えました。滞在していただいている間は、冷蔵庫やパントリーの食材は自由に使っただき、電子レンジやガスを使って、好きなように料理してもらっています。これは、わが家だけのやり方ではなく、ここではみんながこのような方法でお客さまを迎え入れています。とは言うものの、夕飯だけは何か私たちが作っています。

このようなシンプルなおもてなしですが、どうか時間を作って、お出掛け下さい。特にお願いしたいのは、2月と8月にそれぞれ1ヶ月以上、家を空けます。その間の留守番をしていただける方があれば、ご連絡下さい。

本の出版

経済産業調査会（東京・銀座）から執筆依頼のあったビジネス英語の本については、遅くとも来年には出版に漕ぎ着けたいと思っています。本のタイトルは「いざという時、この英語」（仮称）で、JとHとで手分けして書いています。

Jの仕事

決まった仕事は、今年も週2回の「総理の一日」の翻訳です。それ以外には、決まったものではなく、不定期に福祉、経済、医療関係のもの日本語から英語への翻訳をしています。去年はe-book（電子書籍）として「英会話力がアップする英語のことわざ」を世に送り出しましたが、今年、タイトル「日本

人がよくする英語の間違い」を新たに編集中です。

もう一本くらい核となる仕事がしたいところです。何か日本語を英訳したい、又は英文校閲をしてほしいとお考えがあれば、是非ともご相談下さい。

童話

Hが2013年から書き続けてきた会話中心の大人向け童話が、この10月によりやくにして完成しました。全18章からなり、Jの姉さんをモデルにしたフィクションで、英訳も行っています。

11月からは、今度はJをモデルにしたもので、「ドンベとマリオ」というタイトルにしました。岡山で毎月発行されている同人誌に掲載しています。締切は毎月10日で一ヶ月A4版で2枚のペースで書いています。締切があるお蔭で四苦八苦しながらも何とか書いています。

絵を描く人は、対象物を見て絵筆で表現します。物語を書くには、鉛筆で物や心理をスケッチする能力が問われます。難しいですが、新鮮で面白いものがあります。

お隣との付き合い

わが家のお隣は全部で6軒あり、すべて境界はフェンスで区切られています。このうち丘の上に位置するお宅から、自噴する泉の水をもらい生活用水として利用しています。泉から300mほど黒パイプで引張り、途中に2.4立方メートル（直径1.6m、高さ1.2m）のタンクがあり、そこから再び黒パイプでわが家に配水しています。タンクはわが家の2Fよりも高いところがあるので、自然圧で2Fまで水が届きます。水と土地の使用料とも只で利用してきました。このお隣の所有者が代わり、どうなるか心配していましたが、これまで同様に使わせてもらえることになりました。

入口ゲートのところにある隣人のお宅には、小学校2年生になる女の子が祖父母に育てられています。朝は祖母がスクールバスの集合場所まで送っていきますが、下校の時間にはそれが出来ないのも、女の子は一人で歩いて家まで帰ってくるようになります。しかし途中で怖い犬がいて、その犬を避けるのを考えた結果、わが家の急傾斜のパドックを通ることを思いついたのです。通ってもいいか尋ねられ

ましたので、もちろん承諾しました。ここを通れば怖い犬に遭わなくて済みます。しかし元々の牧草地ですから、草が伸びると1.5mほどになります。女の子の背丈よりも遥かに高く、ジャングルのようなところを登って帰ってきます。

日本レストラン

Hが60歳の時に作成した「60歳からの10年計画」というものがあります。この中に日本レストランの構想も書き込まれています。NZの食生活、食文化を眺めていると、【たくさん食べることはいいことだ】というものがあります。レストランでの料理の量は半端ではありません。肥満度世界第5位という数字が、それを物語っています。

ずっと日本レストランを開きたいと思ってきましたが、11月によりやくにして実現しました。コンセプトとしたのは、油分や量を減らす、日本料理を取り入れる、わが家の無農薬有機栽培野菜を活用する、食べ残しのないようにするといったものです。食べ残しのないということでは、ここの方式はいいです。各種の料理の大皿から好きなだけの量を自分の皿に装い、食べるというものだからです。ただ気になるのは、いろいろな味付けの料理を一つの皿に盛り、ぐじゃぐじゃにして食べるからです。そこで、日本料理のように料理ごとに器を別のものにしました。

メニュー

ピピの佃煮 地元の海辺で採った2枚貝を佃煮にしたもの

冷凍野菜の煮物

天麩羅 エビ、サツマイモ、ニンジン、ワラビ、レンコン

おにぎり

デザート モモの煮込んだもの

招待したのは古くからの友人で、農業機械の修理などを気安く引き受ける人とそのパートナーにしました。好評でしたので、これからもこうした機会を開いていこうと思っています。

日本図書館

開店休業状態にあります。何とか時間を作り、ホームページを開き、ぼちぼちと活動を開始したい

と思っています。過日、アートギャラリーに行くと日本図書館のことを尋ねられました。2年前にオープンした時の新聞記事を覚えていてくれた人からでした。

住んでいる町・パエロア

パエロアという町の郊外に住んでいます。先住民のマオリの言葉では、パエロアとは長い分水嶺、長い山並みを意味します。その山並みの西向きの丘に家があります。平坦地の少ない北島にあって、広大なハウラキ平野と東側の山並みとから町は成っています。人口は3,900人、総人口が私たち2人を含めて430万人の国にあっては、これだけの人口でも、それなりの存在感があります。主な産業は酪農です。町を国道2号線が東西に走り、この国第一の人口の都市オークランド、第四の都市ハミルトン、第五の都市タウランガまで、それぞれ1時間半以内に行ける便利なところにあります。

交通信号がない、ラウンドアバウトがない、エスカレーターがない、エレベーターがない、タクシーがない、バスがない、鉄道がない、地下鉄はもちろんない、コンビニがないなど、ないない尽しですが、それでもスーパーマーケットがあり、役所、医療機関、図書館、警察などもあり、基本的な日常生活には支障をきたしません。24時間営業のマクドナルドがあり、ここだけが少しだけですが町っぽさの威容を誇っています。町では作業用の長靴を履いた男たちの姿をよく見かけます。Hもその一人です。

短くしようと思ったのですが、更に長くなってしまいました。最後までお読みいただき、どうもありがとうございました。

2016年12月

アオ テア ロア (長く白い雲のたなびく国)

ニュージーランドより

受付日：2017年1月6日

